

飲料（酒類を除く）製造業における死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2020	5	10 ～ 12	行方不明となっていた被災者が、当該事業場の屋外排水処理施設内に設けられている活性汚泥槽（幅6.2メートル、奥行4.0メートル、水深約5メートル）内に沈んでいたところを捜索中の潜水士に発見されたもの。	418	10	100 ～ 299
2020	11	22 ～ 24	大型ボトルに充填した飲料水の出荷ラインにおいて、箱詰めされたボトルをローラーコンベヤからフォークリフト用のパレットに移動させる産業用ロボットの下で、被災者が上流側のコンベヤの末端にあるストッパーの位置調整の作業を行っていたところ、何らかの原因でマニピュレーターが起動し、被災者の頸部がアームの一部とコンベヤに挟まれたもの。	167	7	10 ～ 29
2016	2	21 ～ 22	派遣労働者である被災者は、飲料製造過程で発生する残さを貯蔵庫に排出するコンベヤの洗浄後、洗浄状況を点検口から確認中に左手をコンベヤに巻き込まれ死亡した。	224	7	100 ～ 299
2016	4	21 ～ 22	ペットボトルの材料（PET）の入ったフレコンバック（1袋1050kg）を工場内に2段積で保管していたが、上段のフレコンバックが落下し、その下にいた労働者に激突した。	611	5	10 ～ 29
2016	4	7 ～ 8	自宅の居間にて心肺停止状態で発見された。	921	90	1～ 9
2016	5	1 ～	自宅で工場ラインの生産停止状態を確認したため、工場担当者と電話連絡を取ったのち、工場に向かう途上で交通事故にあった。	231	17	100 ～

		2				299
2016	8	10 ～ 11	<p>カップ飲料の自動製造ラインで空カップの搬送に不具合が生じたため、被災者を含む3名で不具合の復旧作業中、製造ラインのマシンストップボタンを押し、インターロック付き扉を開け製造ライン内に被災者が入り空カップの補充を手作業で行っていたところ、空カップを搬送する装置（キャリッジ）が突然動き出しキャリッジと空カップを充填する装置のフレームに腹部を挟まれ搬送先の病院で死亡が確認された。</p>	165	7	100 ～ 299
2014	3	13 ～ 14	<p>重量約1.2トンの脱気装置を、最大積載荷重1.5トンのフォークリフトでバック走行させながら運搬していたところ、フォークリフトの左前輪部の路盤が陥没し、フォーク上に積まれた脱気装置が落下。フォークリフトの左前輪部周辺にいた被災者に倒れかかり、地上を通っていた水管との間で挟まれた。</p>	222	4	300 ～ 499
2014	4	14 ～ 15	<p>工場内にて、製品の移動作業中、床に座り込んでいた被災者が同僚によって発見された。病院に救急搬送され、脳内出血、脳動静脈奇形により死亡した。</p>	921	90	30 ～ 49
2013	8	9 ～ 10	<p>被災者は、商品であるコーヒー豆を挽いた物を袋に詰める包装機械において、当該機械にエラーが生じ、エラー解除の作業をするために当該機械内に入るため、当該機械の囲いに設けられている扉から当該機械内に侵入し、エラーの内容を確認している際、近くに存在する回転するシャフトに服を巻き込まれ、窒息した。</p>	169	7	30 ～ 49
2012	3	18 ～ 19	<p>2階の調合室にて、パレット（1.1×2m）にのせたコーヒー豆250kgをフォークリフトにて1階まで荷下ろしするために、壁面を開口した資材搬入口（タテ1.97、ヨコ2.4m）まで金具をパレット穴に引っかけて後ろ歩きに引いて寄せる作業をしていたところ、誤って搬入口から3.6m下の1階床に墜落した。</p>	416	1	30 ～ 49
2010	4	11 ～	<p>殺菌処理から箱詰めまでを全自動で行う缶飲料製造ラインにおいて、チェーンコンベアで搬送される缶飲料入りの鉄製バスケットとチェーンコンベアの支柱との間に被災者が頭部を挟まれているのが発見された。被災</p>	224	7	50 ～

		12	者は当該ラインの担当で、ラインを停止させずに何らかの作業を行っていたものと推測される。			99
2009	2	18 ～ 19	被災者は、同僚と2人で緑茶の抽出プラントの清掃作業をしていた。被災者が攪拌機を停止して中に入り、かす等を取り除く作業を行っていたところ、同僚の作業者が誤って攪拌機の起動ボタンを押したため、攪拌機に巻き込まれた。	162	7	100 ～ 299
2009	8	9 ～ 10	被災者がフォークリフトのパレットの上に乗って、抽出室の天井付近の冷風の出るフレキシブルホースの補修作業をしていた。フォークリフトのレバー操作をした作業者は、補修に使うガムテープを取りに行くためその場を離れたが、クラクションの音を聞いたので戻ったところ、被災者が抽出室から出てきて倒れるところを目撃した。発見時フォークは上昇し、マストは運転席側に傾斜していた。	222	1	100 ～ 299
2009	9	7 ～ 8	烏龍茶抽出用タンク（高さ3.5m、直径3.4m、常圧）の容量センサー付近の液漏れ故障を修理するため、タンク内を空にして被災者と同僚の2人がタンク内で修理作業を行おうとしたところ、被災者が倒れた。同僚は自力で脱出し周囲に救援を求め、直ちに他の同僚がタンク内に残された被災者を救出するためタンク内に立ち上がったが、具合が悪くなった。その後、自力で脱出した同僚と救出に向かった同僚は病院で治療を受けた。	714	12	300 ～ 499
2008	4	19 ～ 20	工場内において、製品の出荷作業を請負う構内下請の作業者が、清涼飲料水の出荷作業をパレタイザーを用い実施していた。パレタイザーの1階部分にパレットが詰まりパレットが持ち上がらなくなったため、1階部分の機械内部に身体を入れてパレットの位置を修正していたところ、パレットを持ち上げるパレットコンベヤーが不意に起動したため、パレットコンベヤーの搬器とコンベヤーの枠部分にはさまれた。	169	7	50 ～ 99
2005	7	17 ～ 18	製品の乳酸飲料が入っていた熟成タンク(6,000l)の清掃作業中、タンク内で倒れた。	419	12	10 ～ 29
			飲料水製造ラインのリフター（パレットに乗せたペットボトルを上昇させ			

2003	3	13 ～ 14	る装置)の高さの調整作業中に、リミットスイッチとの隙間を確認しようとリフター内に上半身を乗り出していたときに、動き出したリフターに頭部をはさまれた。	229	7	10 ～ 29
2001	10	16 ～ 17	乳酸飲料製品の販売指導のため軽自動車で国道を走行中、対向の大型トラックと正面衝突した。	231	17	100 ～ 299
2001	5	11 ～ 12	製函工場において、昼食時に交替する作業者が居ないため工場内を探したところ、工場2階の垂直搬送機の昇降路内で頭部を負傷し倒れているのを発見した。	229	7	10 ～ 29
2000	11	16 ～ 17	ゆず貯蔵タンク(深さ約1m)の内部に上半身を入れて、タンクを清掃中に、着用していたエプロンの背部が攪拌棒の上部から約1.5cm突出したネジ部にかからまり、エプロンで首を締められた。	121	7	1～ 9
2000	1	16 ～ 17	その年の最初のコーヒー抽出作業で、8サイクル(1サイクル約30分)目の抽出を開始して約3,4分後に上蓋部分から吹き出た抽出液(約107℃)で火傷を負った。	312	11	100 ～ 299
1999	7	13 ～ 14	社用車で走行中、料金所ブースに衝突した。	231	17	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_30.htmlに戻る。